

《小学校・社会》

I 学力診断テストの概要

1 「群馬県教育課程実施状況調査」等に見られる本県児童生徒の課題

(1) 「群馬県教育課程実施状況調査」の結果について

「群馬県教育課程実施状況調査」では、本県の児童の通過率は、すべての観点で全国平均をやや上回っている。このうち、複数の資料からの読み取りに関して、共通点を読み取ったり、一つ目の資料を条件として二つ目の資料を読み取ったりする設問や、資料で読み取ったことを基に自分の考えを短い文章にまとめる設問において全国平均を下回っている。したがって、資料を基にして考えることや、自分の考えを適切に表現することに関する詳細な課題分析が必要である。

(2) 資料を活用して考え、適切に表現する力の向上を図る観点から

これまで小学校の授業では、課題解決的な学習が進められ、児童自らが調べ、まとめ、発表する指導が行われるようになってきている。しかし、単に調べて終わり、調べたことを発表して終わりという指導も多く見られる。資料を活用して課題を解決し、適切に表現するような指導方法の改善が必要である。

2 出題単元と各設問の設定意図

(1) 出題単元：資料を活用して考え、適切に表現することに関する問題

(2) 各設問の設定意図

単元	各設問の設定意図	
① 我が国の水産業	グラフなどの基礎的資料の活用の技能、及び資料から学習課題を設定していく過程での思考の様子を把握する。	1 折れ線グラフの基本的な読み取りに関する能力を探る。
		2 複数のグラフの比較・関連させた読み取りに関する能力を探る。
		3 資料から読み取ったことを基に、疑問と予想の設定に関する能力を探る。
② 我が国の工業生産	有効な資料を正しく活用して、課題を追究する過程でのつまずきを探る。 課題を追究するなかで導き出された考えの根拠を表現させることで、思考の深まりやつまずきを見取る。	1 工場見学の場面で、見学前に立てた予想を確かめる質問や、見学後の考察について問うことで、児童の思考の流れに沿ったつまずきを見取る。
		2 資料の中から、課題にあった適切な情報を読み取れるかを見取る。また、工業の盛んな地域が太平洋ベルトに集まっている理由を、資料を活用して考え表現できるかを問う。
③ 国土の自然	複数の資料から情報を得て、課題を解決する思考、及び発表の場面で、社会的事象の意味について考える様子を把握する。	1 「季節風の向きと台風の通った数」と「気温・降水量」のグラフという形態の異なる資料から得られる情報を活用して、課題解決ができるかを問う。
		2 写真と説明文で構成されている資料から得られる情報を活用して、課題解決ができるかを問う。

II 各設問における分析結果と授業改善のポイント

課題1 折れ線グラフから変化や特徴を読み取る指導を計画的・継続的に行う。

1 具体的な問題と反応率

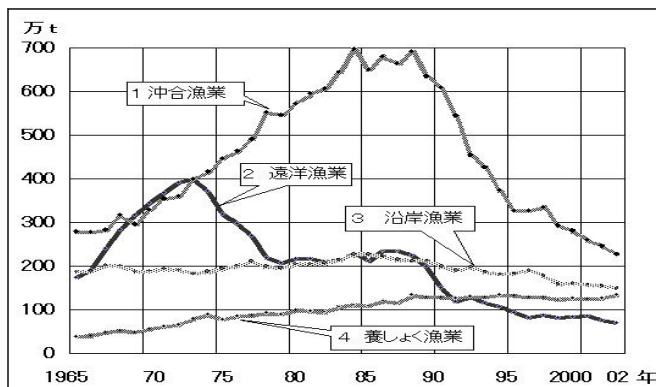
1 身近な自分たちの生活と水産業とのかかわりをもとに、学習課題を立てて学習を進めることになりました。次の資料①～③を見て、問題に答えなさい。

1 次の [] の (ア) と (イ) の二つの文は、資料①の四つの漁業のうちの一つについて説明したものです。次の1～4のどの漁業を説明したものでしょうか。一つ選んでその番号を書きなさい。

- (ア) この漁業の2002年の生産量は、最も多い時期から見ると、およそ五分の一になっています。
- (イ) この漁業は1965年から少しずつ生産量を増やし、2002年ではおよそ130万tを生産しています。

- 1 沖合漁業 2 遠洋漁業
3 沿岸漁業 4 養しよく漁業

▼資料① 日本の漁業別の生産量の変化



(統計局 日本統計年鑑2004より作成)

2 課題分析結果

(1) 設問1 1より

○ 設問(ア)は、四つの漁業のそれぞれの折れ線について、2002年の数値と最も生産量が多かった年の数値を読み取って、前者が後者の何倍かを計算して正答を導く問題である。設問(イ)は問題文の「2002年ではおよそ130万tを生産している」「少しずつ生産量を増やしている」から、2002年の数値を読み取ることと1965年からのグラフ全体の増減の傾向を読み取ることの両方から正答を導く問題である。

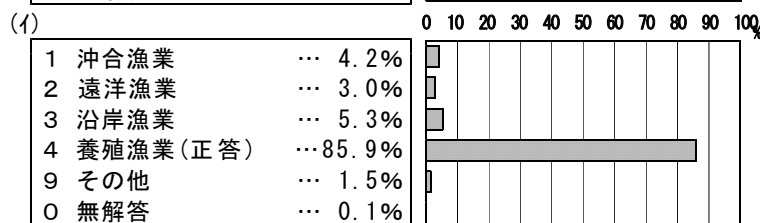
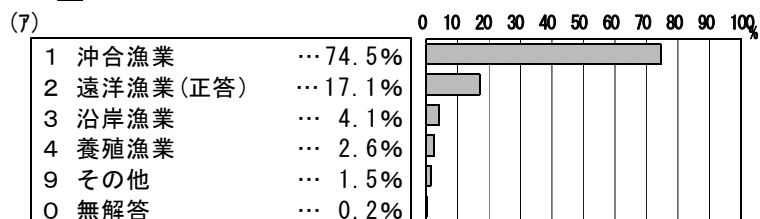
○ 設問(ア)で類型2の遠洋漁業と正答できた児童は、17.1%、類型1の沖合漁業と誤答した児童が74.5%であった。沖合漁業を問題の文に当てはめて考えると「約三分の一」となり、正答の「約五分の一」にはならない。問題文の中の「生産量は、最も多い時期」という語句や、生産量が急激に減少していることから数値に関係なく沖合漁業を選択していると考えられる。

○ 設問(イ)で類型4の養殖漁業と正答できた児童は85.9%であった。グラフの全体の傾向や、ある時点での数値を読み取ることとはできていると言える。

○ 設問(ア)と(イ)から、二つ以上の数値を読み取って何倍になるかなどの数値を比較したり、計算したりして考えることに弱さが見られる。

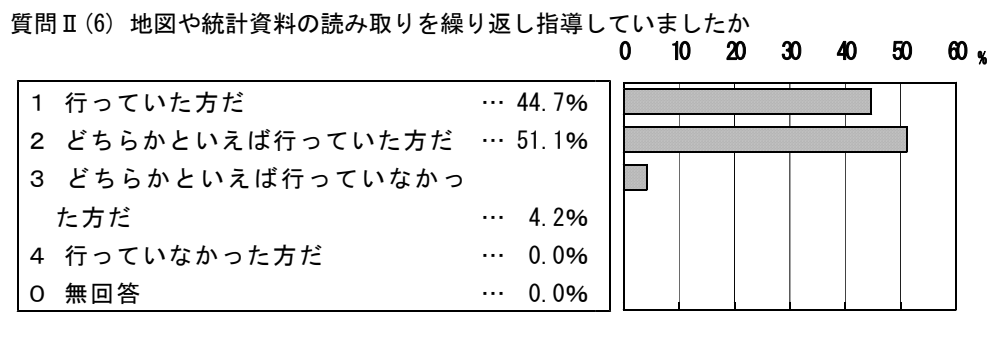
<解答類型>

設問 1 1



(2) 学校調査より

- 地図や統計資料の読み取りについての繰り返し指導は、類型1と2を合わせて95%以上の学校で取り組んでいる。



- 資料の読み

取りは、社会科学習を進める上で大きな役割を担っているため、類型1以外の回答をした学校について、繰り返し指導を充実させる必要がある。

3 授業改善のポイント

- グラフから変化や特徴等を読み取る場合、まず、教師が黒板等に資料を掲示して、表題・縦軸・横軸がそれぞれ何を表しているか、変化が大きいところはどこかなどの着眼のポイントを具体的に示し、全員で確認しながらグラフの全体的な傾向を読み取る指導を工夫する。
- グラフの具体的な数値を複数取り上げ、何倍に増えたか（何倍にあたるか）などの着眼のポイントを示し、増減の傾向等を把握させるなど、資料の丹念な読み取りの指導を計画的・継続的に行うようにし、グラフの基本的な読み取りを身に付けられるようにする。

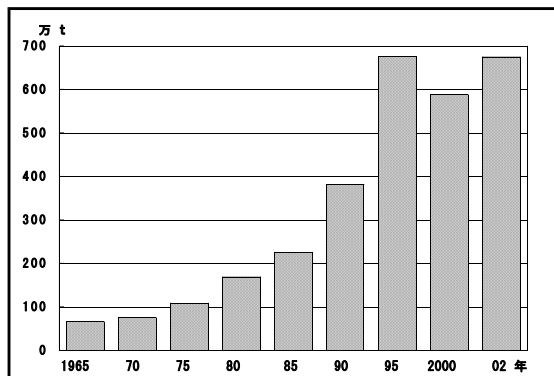
課題2 探求型の課題解決的な学習を進められるよう、課題意識をもてる資料を提示する工夫をする。

1 具体的な問題と反応率

1 2 資料①と資料②の両方からどんなことが分かりますか。分かることを書きなさい。

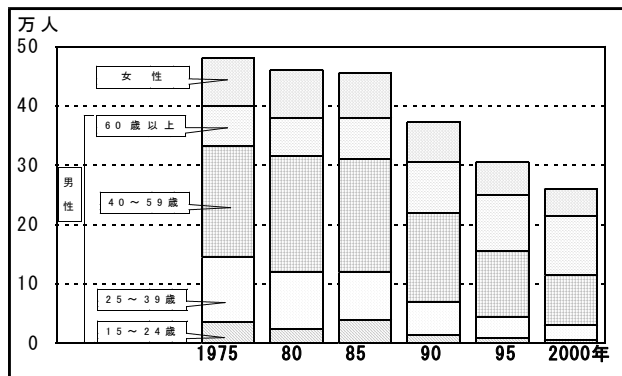
3 (1) 資料③を見て、あなたが日本の水産業について疑問に思ったことはどんなことですか。その疑問を「なぜ、……なのだろうか。」のような文にして書きなさい。

▼資料② 日本の水産物の輸入量の変化



(統計局 日本の長期統計系列より作成)

▼資料③ 水産業で働く人の数の変化

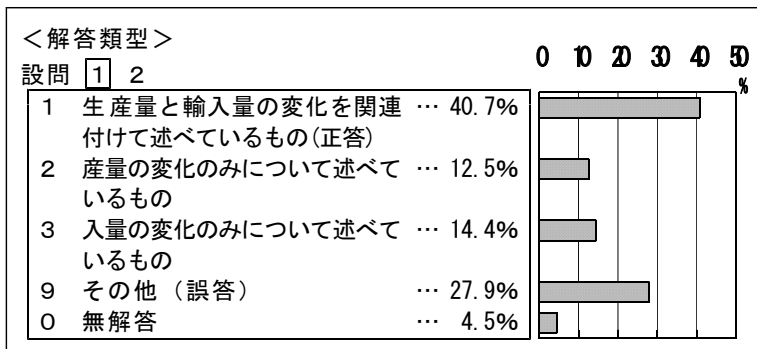


(農林水産省 漁業・養殖業生産統計年鑑報 2003より作成)

2 課題分析結果

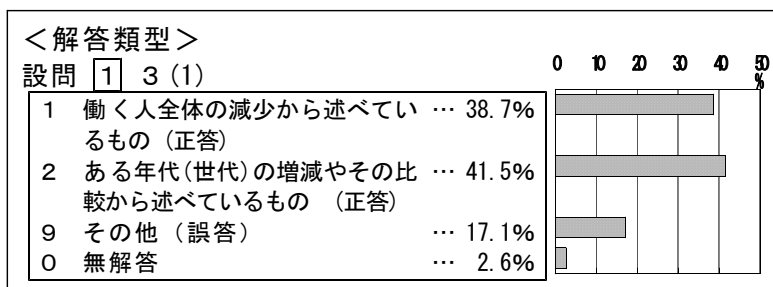
(1) 設問1 2より

- この設問は、資料①の生産量と資料②の輸入量のグラフを比較・関連させてそれぞれの増減の様子から両者間に相関関係があることを読み取るものである。
- 類型1のように正答できた児童は40.7%であった。
- 類型2と3を合わせた26.9%の児童は、生産量、輸入量の全体的な増減についてのみ触れており、生産量と輸入量を関連させる見方にはなっていないかった。その他の解答をした児童は27.9%で、生産量や輸入量の細かな増減等に触れている児童が多かった。「どちらも生産量と輸入量を合計した量が我が国で消費されている量になる」という相関的な関係を見いだす考え方に至っていないものであった。



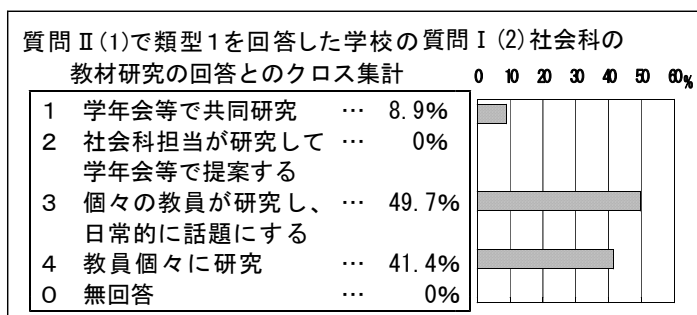
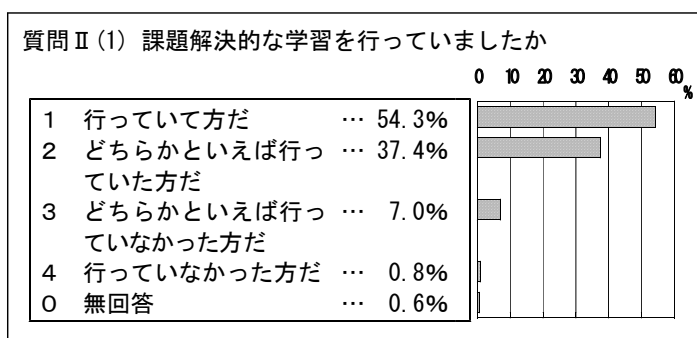
(2) 設問1 3(1)より

- この設問は、学習課題を設定する際に重要な、グラフ等の資料から驚きや疑問を見いだし、疑問の形にして表現するものである。
- 正答できた児童は類型1と2を合わせて80.2%であった。
- 類型1の正答としては、水産業に従事する人全体の人数が25年間で約半数にまで減少していることを読み取って、疑問として感じ取れているものである。
- 類型2の正答としては、水産業に従事する人数の減少の中でも年齢構成に着目して59歳までの人数が急激に減少していることについての疑問や、60歳以上の人数や全体に占める割合の増加について疑問を見いだすことができていた。類型2の解答のほとんどが複数の要素を比較して考えているもので、さらに深い資料の見方ができていると言える。
- 類型9のその他の誤答では、生産量の減少や輸入量の増加について述べているものが多く見られた。これは、資料③を見て解答すべきところを、資料①・②と勘違いをして解答している。



(3) 学校調査より

- 課題解決的な学習の実施の状況を示している。類型1と2を合わせて91.7%と、ほとんどの学校で実施していると言える。
- 質問Ⅱ(1)で類型1を回答した学校の質問Ⅰ(2)社会科の教材研究の回答のクロス集計を見ると、教材研究は個々の教員が行っている。資料の選定や作成、学習課題の内容や設定の仕方など、共有化するようにしたい。また、作成した資料等は次年度に引き継ぐようにしたい。そうすることで、よりよいものができるとともに、教材研究の負担を軽減することができる。



3 授業改善のポイント

- 児童にとって驚きや疑問など意外性のある事実を含む資料を提示し、課題意識をもてるような社会的事象との出会いを工夫する。
- 驚きや疑問などの課題意識を基に、「なぜ～」「どのように～」のような、単元の目標につながる社会的事象の特色や意味について追究する探求型の学習課題を設定できるような工夫をする。

課題3 学習課題の予想を立てたり、学習計画を立てたりする指導を工夫する。

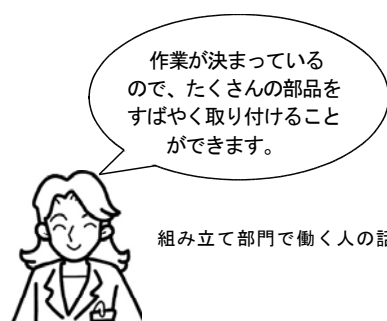
1 具体的な問題と反応率

1 3 (2) (1) で書いた疑問についての答えの予想を「それは、……だからだと思う。」のような文にして書きなさい。

2 日本の工業の学習について、以下の問題に答えなさい。

1 自動車工業の学習で、「よりよい自動車をたくさん生産するために、働く人々はどのような工夫や努力をしているのだろうか。」という学習課題を立て、自動車工場を見学して調べることになりました。そして、次の資料をもとにして、学習課題の予想を考えてから工場見学に行くことになりました。

(1) えつ子さんは、自分の予想を確かめるために、二人の工場で働く人に同じ質問をしました。すると、次のような話を聞くことができました。えつ子さんはどのような質問をしたと思いますか。次の①～④の中から一つ選んで書きなさい。



組み立て部門で働く人の話



溶接部門で働く人の話

- ① 「機械を使うと、どんなよいことがありますか。」
- ② 「たくさんの部品を使うと、どんなことが大変ですか。」
- ③ 「流れ作業で仕事を分担すると、どんなよいことがありますか。」
- ④ 「つくる車の種類が変わると、どんなことが大変ですか。」

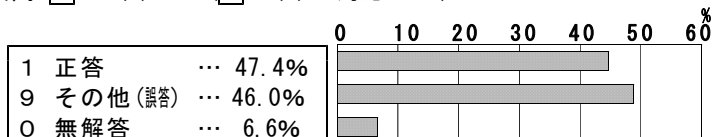
2 課題分析結果

(1) 設問1 3 (2)より

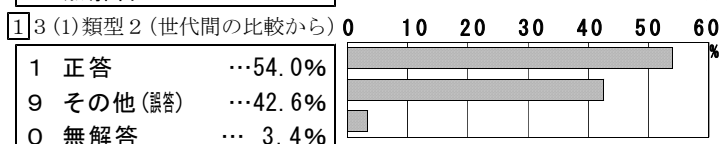
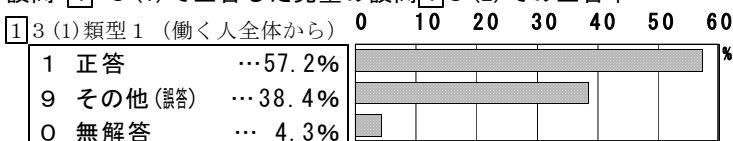
- この設問は、1 3 (1)の疑問に対応する答えを予想する問題である。
- 設問全体から見た正答率は47.4%であった。
- 1 3 (1)で類型1のように「働く人全体の減少」に目を向けて正答した児童のうち、1 3 (2)で正答した児童は57.2%であった。資料①から読み取った「漁業全体の生産量が減少していること」と関連させ、漁業の「仕事」や「収入」が減少しているのでは

<解答類型>

設問 1 3 (2) (1 3 (1)と対応して)



設問 1 3 (1)で正答した児童の設問1 3 (2)での正答率

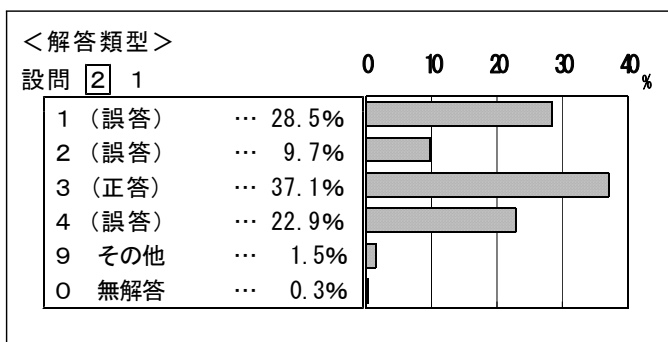


ないかと予想できている。類型9のように誤答した児童は、資料②で読み取った「輸入量が増大していること」と関連させることはできたが、消費者からの視点で考えており、漁業で働く人での視点から考えられていないものが多かった。

- ①3(1)で類型2のように「働く人の年齢構成の変化」に目を向けて正答した児童のうち、①3(2)で正答した児童は54.0%であった。やはり、資料①から読み取った「漁業全体の生産量が減少していること」と関連させ、他の職業と比較して漁業の「仕事の大変さ」に目を向けて減少しているのではないかと予想できている。類型9のように誤答した児童は、漁業が高齢化していることに目を向けられたが、その理由までは予想できなかったものが多かった。資料①・②以外の内容も含んでいるため、生活経験や既習事項から得た知識も必要とするため、①3(1)の類型1の場合よりも正答率が若干下回っている。

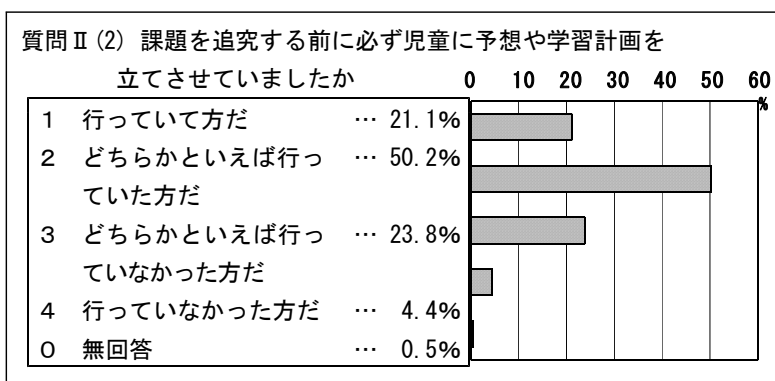
(2) 設問②1より

- この設問は、複数の事象を関連させ、共通点を見だし、予想を確かめるための質問を考える問題である。
- 類型3を正しく選択できた児童は37.1%であった。
- 類型1と誤答した児童が28.5%いた。二つの部門とも機械を使用している共通点はあるが、組み立て部門の人の話には当てはまらない。溶接部門の人の話のみで選択している。
- 類型4と誤答した児童が22.9%いた。これは、働く人の話の資料から考えているのではなく、自動車工場では、様々な車種を生産したり、購入者の注文に応じたりするなどの工夫をしているという知識から選択していると考えられる。



(3) 学校調査より

- 質問Ⅱ(1)のように、課題解決的な学習の実施は、類型1と2を合わせて91.7%と、ほとんどの学校で実施しているが、質問Ⅱ(2)では、類型1が半減し、2、3、4が増えているように、課題について予想を立てたり、学習計画を立てたりする指導はあまり行われなくなっている。このことから、調べるだけの学習課題であったり、筋道立てた追究になっていなかったりするなどの課題が見えてくる。従事者の工夫や努力、社会的事象の問題点等を追究するような学習課題を設定する必要がある。



3 授業改善のポイント

- 予想を立てる際には、既習事項（既有知識）を生かすとともに、人々の工夫や努力などにかかわる社会生活の一部が分かる資料を提示して、学習課題と関連させて答えに当たることを予想するなどの学習を工夫する。
- 学習計画を立てる際には、予想が正しいか、確かめるためにはどのようなことが分かればよいか、どのような資料があればよいか、どこへ行けば調べられるかなどの追究への見通しをもつ学習を工夫する。

課題4 一つの資料を様々な見方で読み取ったり、複数の資料を関連させて読み取ったりして、特色を考える指導を工夫する。

1 具体的な問題と反応率

2 たかし君とえつ子さんは、日本の工業の特色について調べることにしました。

(1) たかし君は、表を見て小工場、中工場、大工場の様子について調べました。
小工場にあてはまる番号、大工場にあてはまる番号をそれぞれ一つずつ選んで書きなさい。

- ① 働いている人の数は最も多いが、工場数は少ない。
- ② 働いている人の一人あたりの生産額が最も多い。
- ③ 日本の工場数のほとんどをしめているが、生産額は少ない。
- ④ 工場数は多くないが、生産額は全体の40%になっている。

▼資料 日本の小工場・中工場・大工場の様子

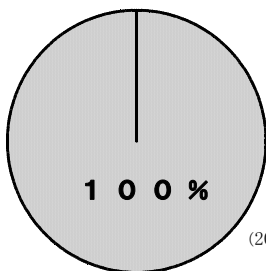
	工場数	働く人の数	生産額
	全国計 53万6591	全国計 878万3805人	全国計 約272兆円
小工場 (1~29人)	48万9545	302万1637人	約38兆円
中工場 (30~299人)	4万3832	346万2503人	約102兆円
大工場 (300人以上)	3214	229万9665人	約132兆円

(2004年経済産業省調べ)

2 たかし君とえつ子さんは、日本の工業の特色について調べることにしました。

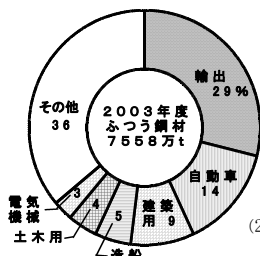
(2) えつ子さんは、日本の工業のさかんな地域は、太平洋ベルトに多く集まっていることに気がきました。なぜ、そこに多く集まっているのか、次のグラフや地図を見て、その理由を考えて書きなさい。

▼ 鉄鉱石の輸入量の割合



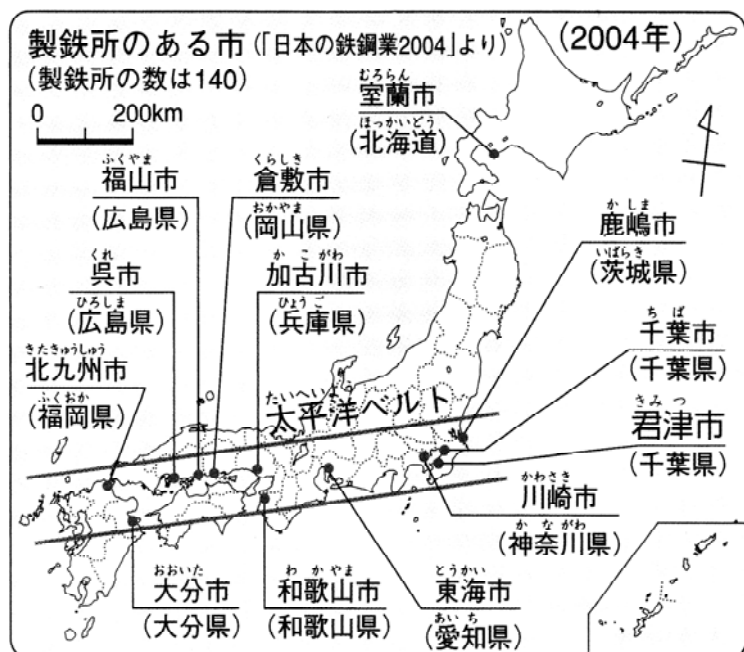
(2003年 経済産業省調べ)

▼ 鉄の使われ方



(2004年 日本鉄鋼連盟調べ)

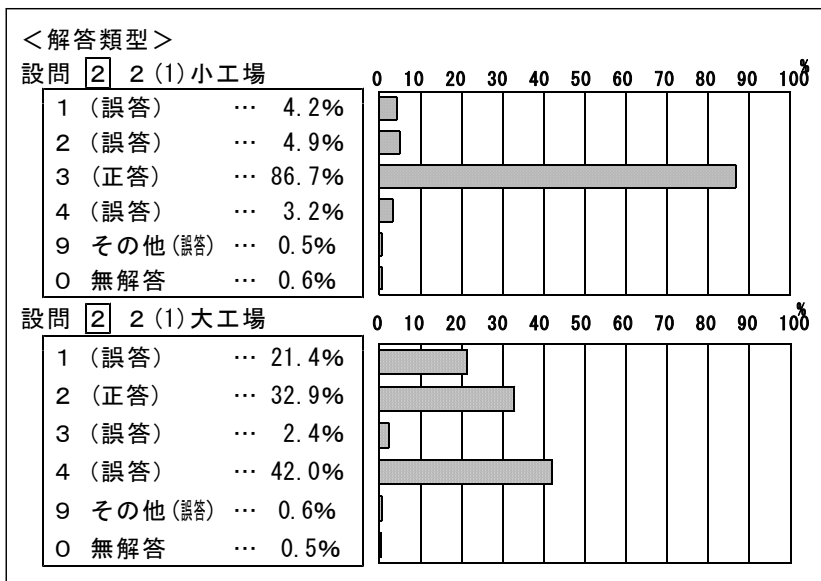
▼ 主な製鉄所の分布



2 課題分析結果

(1) 設問2(1)より

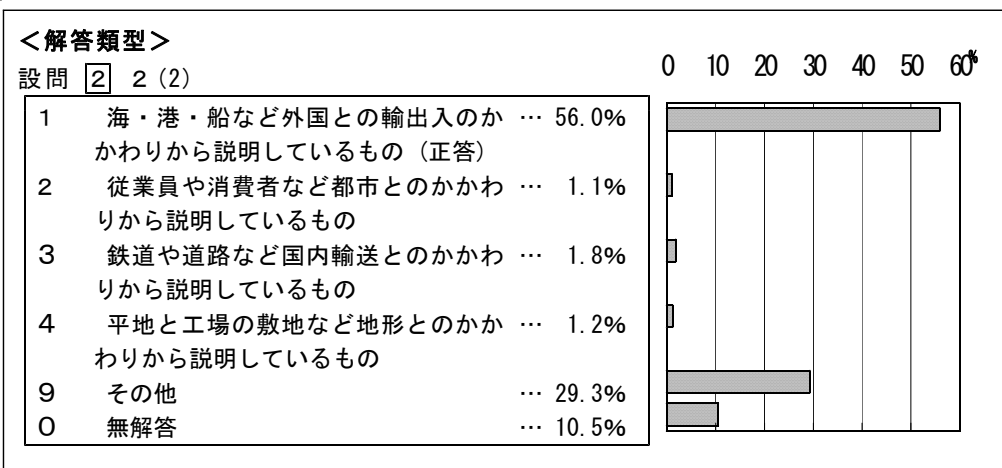
- この設問は、2次元表の読み取りに関する問題で、「工場数」「働く人の数」「生産額」の数値を関連させて、小工場、中工場、大工場等と比較し特色を考えるものである。
- 類型1と3は、「工場数」「生産額の二つの数値をそれぞれ比較して特色を考えるものである。3が小工場に該当し、正答できた児童は86.7%であった。数値を直接比較して考察し適切に選択することができている。



- 類型2と4は、「一人当たりの生産額」「生産額は全体の40%にあたる」のように、数値を計算してから比較し特色を考えるものである。2が大工場に該当し、正答できた児童は32.9%であった。4を選択した42.0%の児童は、生産額の全体の何%に当たるという見方はできているが、一人当たりという見方をするのが十分でなかったと考えられる。

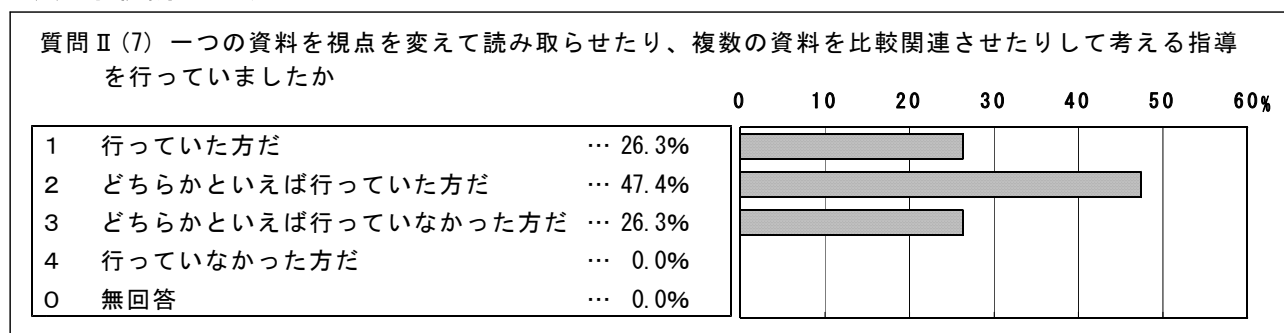
(2) 設問2(2)より

- この設問は、見いだした社会的事象の特色の根拠について、資料を基にして明らかにするものである。
- 正答できた児童は56.0%であった。



- その他の解答が29.3%であった。「海沿いにある」ということに触れているが、「輸出入」については触れていないものが多かった。これは、製鉄所の分布のみで考えており、二つの円グラフと関連させていないためであると考えられる。

(3) 学校調査より



- 類型1と2を合わせても73.7%と、基本的な読み取りの繰り返しの指導と比較してあまり高いとは言えない。

3 授業改善のポイント

- 一つの資料から特色を読み取る場合、具体的な数値を用いて割合や平均値等を求めるようにするなど、様々な読み取りができるよう工夫する。
- 複数の資料を比較・関連させて読み取る際には、資料が表している事柄の関係、変化の傾向や割合等の共通点や相違点に着目するなど、比較する視点を示して読み取るよう工夫する。
- 資料から読み取った共通点や相違点について、共通する理由などの視点から社会的な意味を考える指導を工夫する。
- 資料から読み取ったことが、学習課題や予想とどのようにかかわっているかを見直すなど、いつも課題解決を意識した調べ活動となるような指導を工夫する。

課題5 複数の資料から読み取った社会的事象の特色を短い文章でまとめる指導を工夫する。

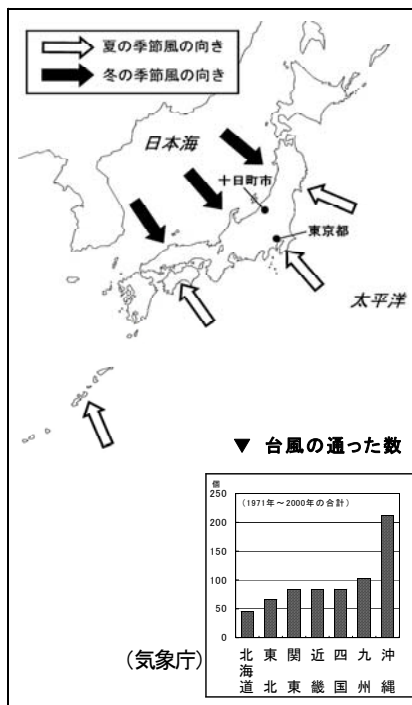
1 具体的な問題と反応率

3

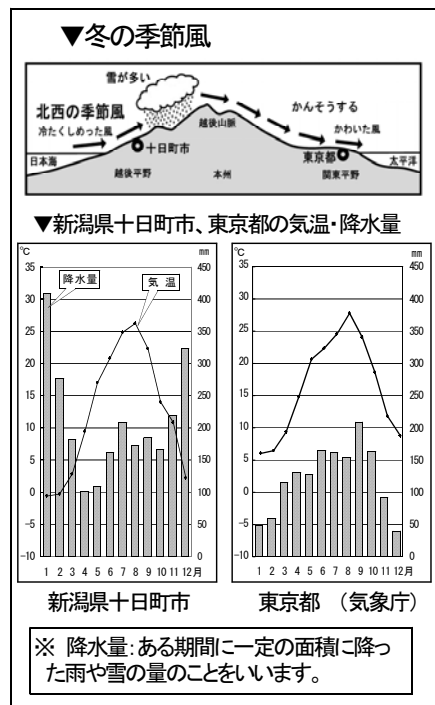
とも子さんは日本の気候のようすと気候に合わせた家の作り方について調べたことを、次の4つの資料を使って発表することにしました。後の問題に答えましょう。

- 1 とも子さんは、冬(12月～2月)の日本海側の気候のようすについて説明しようと思います。あなたなら、どのように説明しますか。説明の中に「日本海」「季節風」という言葉を入れて書きなさい。

▼(資料①) 季節風の向きと台風の通った数



▼(資料②) 冬の季節風と新潟県十日町市、東京都の気温・降水量



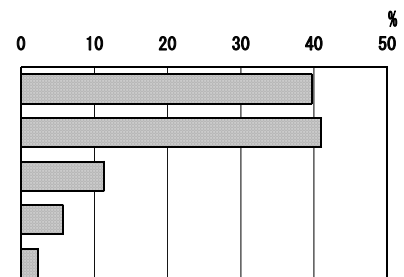
2 課題分析結果

(1) 設問3 1より

<解答類型>

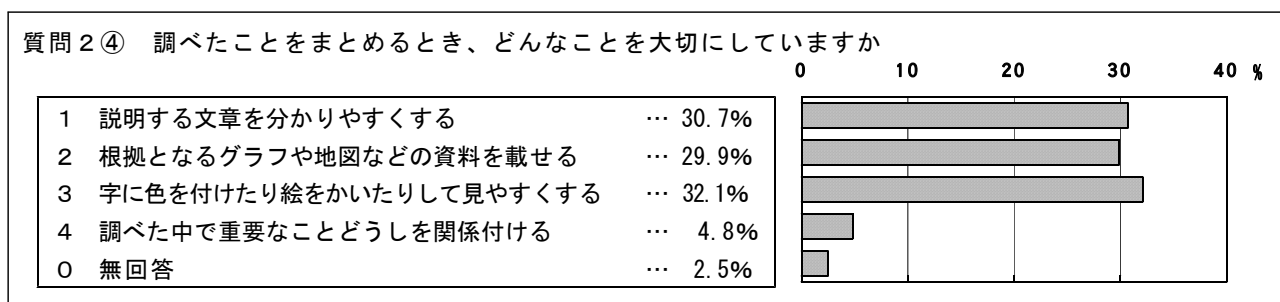
設問 3 1

- 1 冬の「季節風」「日本海」を原因として、「多くの雪 ... 30.9% を降らせる」を結果として述べているもの (正答)
- 2 「日本海」「季節風」を原因としているが「多くの降水量」を結果として述べているもの (準正答)
- 9 その他 (誤答) ... 52.0%
- 0 無解答 ... 11.1%

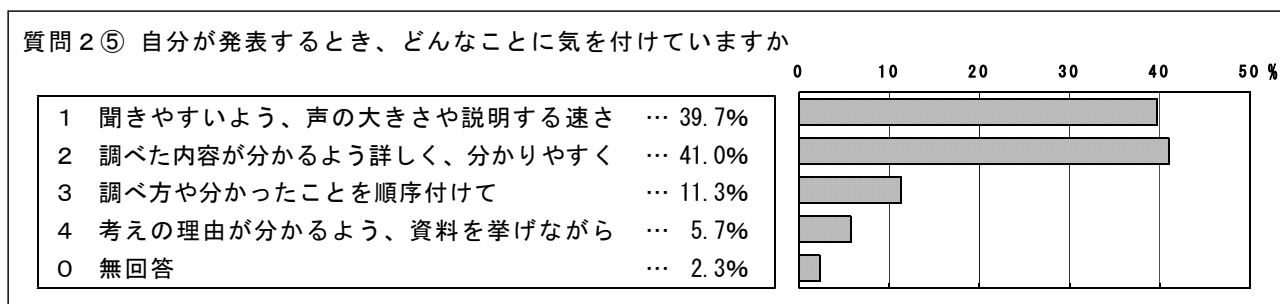


- この設問は、二つの雨温図を比較して気候の違いを見いだすとともに、その特色を図と関連させて文章で表現するものである。
- 正答できた児童は30.9%、準正答できた児童と合わせて37.0%であった。
- その他の解答をした児童が52.0%であった。二つの雨温図の比較から冬の降水量の違いを読み取れないことが大きな原因となっている。また、冬の降水量の違いは読み取れたが、「日本海」「季節風」という言葉を原因として適切に関係付けて表現できなかった解答も見られた。

(2) 児童生徒質問紙調査より



- 質問2④を見ると、調べたことをまとめるときに、32.1%の児童が3の字の色や絵などの見た目の印象に目を向けている。特に女子にその傾向が顕著である。見やすさも大切であるが、学年が進むに伴って2の考えの根拠を示すことや、4の重要な言葉を関係付けるなどまとめ方について指導が不十分であることが分かる。



- 質問2⑤を見ると、発表する際に気を付けることとしては、39.7%の児童が1の声の大きさと読む速さに目を向けている。質問2④と同様に、学年が進むのに伴って3の追究の過程や、4の根拠を示すなどの発表の仕方について指導が不十分であることが分かる。

3 授業改善のポイント

- 資料から社会的事象の特色を読み取ったことを文章でまとめる際には、考えの根拠となる資料を載せたり、キーワードを意識して短い文章で記述させたりする活動を工夫する。
- 発表する際には、自分の考えたことと学習課題とのかかわりを挙げながら説明したり、考えの根拠を示す資料を挙げながら説明したり、キーワードを挙げて関係付けながら説明したりする活動を工夫する。
- 発表したことを話し合う際には、それぞれが調べたことが学習課題とどのようにかかわっているか相互の関係や共通点を話し合うなど、考えを共有し深め合う活動を工夫する。